

米山梅吉記念館 館報

2006
(平成18年)

秋

Vol. 8



米山梅吉は大きな夢と希望を胸にアメリカへと旅立った。明治20年、20歳のことである。サンフランシスコに着いた彼は福音館寄宿舎に寄寓。ここは日本の若者が多く逗留し、それぞれの夢を実現すべく学問に励んでいた。少年時代から文学に目覚めていた米山は、謄写版刷りの週刊誌「蒸気船」を発行した。できれば将来ペンで身を立てていきたいと考えていた。ここでその腕を磨こうと考えたのだろう。

このとき米山は人生第二の師ともいえる本多庸一に出会った。本多は弘前出身で東北地方の伝道師として東奥義塾を再興、初代青山学院長を務めた人物であり、米山と青山学院を結びつけるきっかけとなった人物でもある。米山はその教えを吸収しようと本多の所に毎晩押しかけたという。

この写真は留学中に仲間と撮ったものと考えられる。まっすぐ伸びた背筋で見据えた眼差しの中にはどんな世界が広がっていたのであろうか。



財団法人 米山梅吉記念館

館報第8号発行に際して

理事長 内藤 成雄



全国のロータリーアンの皆さん、米山梅吉記念館です。年間の変わらぬご支援ありがとうございます。

北朝鮮ミサイルに振り回される毎日、ゼロ金利解除、いくらかの景気回復の様子は見えるものの、未だ我々近辺の小型店閉鎖は続き、報道は相変らず異常な人間の精神基準では図れない異常な事件、犯罪が連日続いています。

しかし我々は幸いロータリーの輪という一次元連う空気を吸い、友愛、親睦、奉仕というような世界に住む幸せを感じております。

2006-2007ウィリアム・B・ボイドR.I.会長「親睦と奉仕を通じて明るい未来をもたすために、120万ロータリアンが力を合わせて率先していくのです」と訴えています。そのR.I.会長が2月の国際協議会で「今日、私たちは半世紀前にハロルド・トーマスが抱いていた目的と同じ目的をもって、ここに集まっています。それは今も昔もこれからも変わることなく、より良きロータリーとよりよきロータリアンになることです」と1950年のレイクプラシッドの国際協議会でのスピーチを伝えています。このことはロータリーの友7月号の神崎正隆ロータリーの友委員長（茅ヶ崎南南R.C.）の巻頭エッセイによって知りました。神崎P.G.は続けてハロルド・トーマス氏の言葉を伝えています。「ロータリーは4つの主要な奉仕の大道をもっています。その目的とするところは一つです。・・・しっかりとロータリアン(four-square Rotarian)がロータリーの真の目的です」「ロータリーのプログラムは、いかなる形においても団体行動によって世界を正すということを目的としはしていません。」「私はたった一人の人間ですが、それでも一側面人間です。私はすべてのことをすることにはできませんが、少しのことならできます。私は神の御恵によって私にできることを実行して

いきたいと思っています」

この言葉は重い意味を持ちます。つまり全世界のロータリアンが力を合わせて率先するには一人一人の側がfour-square Rotarianになるのだと訴えているのだと思います。ロータリーの哲学です。I serveを自覚したロータリアン個々の心の隅隅には四つのテストと綱領が行き先を示しています。

歴代のR.I.会長のテーマは年毎にロータリアンを励ましますが、私がガバナーを仰せつかった年数は1994-95年で、その時のPresidentはBill Huntleyという人でテーマは「BE A FRIEND」でした。一人一人がしっかりと個(A)のロータリアンになり、それが手を取り合って友達になろう、率先しようとした年でした。ハントレー氏は本年他界しましたが、先般私の同僚のガバナー会（代表小久保隆行P.G.）から米山記念館にこの「BE A FRIEND」の記念碑を寄贈したいとの申し出がありました。私は同僚の泣き顔もあり、この有難い友情を感謝して頂きました。four-square Rotarian, BE A FRIENDの文字通りの解釈は米山梅吉先生だと思ったからです。この記念碑の除幕は来る9月16日（土）米山記念館秋季同窓会に兼ねて行われます。記念講演はロータリー米山記念奨学会事務局長 栗原洋子氏にお願いしました。有意義なお話が聞けるとともに楽しみにしております。何卒当日は万難を排してのご来館をお待ちしております。

館のある第26地区も新ガバナー井上雅雄年度を迎えました。館も全国のロータリアンの善意で運営しておりますが、井上ガバナーは館助成を地区の重点施策の一つとして、会員減少にもかかわらず助成金の恒久化を図ってくれました。毎週のお願いで感謝ですが、賛助会制度、全国100円募金制度、クラブ周年行事ご寄付等何卒ご理解を賜りたく、またそれにも応じてのご来館を心からお待ち致しております。

春季例祭



例祭挨拶 内藤成雄 理事長

■日時 2006年4月29日(土)

14:00~16:00

■会場 米山梅吉記念館ホール

●朝 終

●記念講演

演題 「米山梅吉と三井記念館」

講師 前ロータリー米山記念奨学会理事

元三井信託銀行副社長

谷内 宏文氏

●アトラクション

華の演奏会

渡辺 高馬氏、渡辺 清美氏

渡辺 香織氏

●車椅子の受贈

長寿ロータリークラブ

●懇 親 会



館と三井祖恩会を語る谷内宏文氏



長寿RCより来館者用車椅子の受贈を受ける

懇親会 歴代ガバナーも揃って和やかに



アトラクション 華の演奏会



梅吉翁を前に
米山 治氏(左の端)と谷内満博

まず、米山さんの生涯の中で三井報恩会がどのような位置づけになるかということですが、米山さんの実業家としての舞台の中心はいうまでもなく三井銀行であります。三井銀行は28年間務め、明治42年以降14年間池田成彬と共に経営にあたられました。そしてさらにその後10年間三井信託株式会社を創業し日本に初めて本格的な信託業をもたせました。さらに10年間報恩会で各地の奉仕活動をなされた、それが一本柱としてある。そのほか組織に基づいての奉仕は、ロータリークラブの20年間、さらに青山学院で28年間。その中では校友会長を20年間やり、後半10年間緑が丘小学校の校長をなさっておられます。そういう意味で報恩会の10年と緑が丘小学校の10年は米山さんの社会奉仕の集大成といえるわけです。設立の経緯は、当時の関係者と

記念誌編集

余話

(4)

【はじめに】米山は、中国に3回旅行している。1回目は、大正7年10月である。このときは、三井合名の團琢磨に誘われたものである。『團琢磨傳』には、「君は此行に三井銀行常務取締役米山梅吉を語らひ同行を求めた。」とある。

2回目は、大正14年春である。夫人と2人の子供、次男駿二、三男桂三を伴ってのものである。上海、大連など旧満州、それと朝鮮である。

3回目は、昭和5年10月である。第70区のカバナーとして、地区内全部のロータリークラブを回るべく、大連、ハルビンなど旧満州、それと朝鮮を回った。

【第1回目】米山には、日記がない。足取りをたどるのに非常に苦労する。1回目の支那旅行には、米山側の記録が全く目につかない。婦朝談話の新聞記事がある位である。この旅行の内容は、同伴者である團琢磨の記録から推し量ることになる。

これによれば、釜山から京城、奉天(現瀋陽)、大連に行き、船で青島に出て、北京に行っている。途中、孔子のふるさと曲阜にわざわざ立寄った。そのとき、汽車が城門の閉まる前に着かなくて、曲阜の街に入れなくなってしまう。街よりずっと離れた曲阜駅で、車中泊となった。匪賊が出るのでないかなど冷や冷やしながら一夜を明かしたという。

北京では、大統領や首相など要人の会談、梅蘭芳の京劇を見たり、万里の長城(八達嶺)に行ったりする。

その後、中原を南に行き揚子江岸の武漢に出る。ここから、揚子江を岳陽丸で南京まで下る。南京から鉄道で、蘇州を経て、上海に至る。上海では、孫文と会見する。杭州の西湖に遊んだ後、上海から長崎に帰る。ほぼ、2ヶ月の期間である。

この時期、比較的対日感情がよく、特別列車が

米山梅吉の中国旅行

35周年記念誌編集委員長
井口 賢明
(沼津北RC)



九江領事館前 中央が米山 その右團琢磨
九江は揚子江沿いで、都陽湖近くの港町 景徳鎮の陶磁器輸出港としても知られる

用意されるなど、賓客としての待遇だった。

この旅行は、特に決まった目的はなかった。名目上は、支那漫遊旅行である。しかし、『團琢磨傳』の記事などを総合すると、次のようなことである。大正3年に始まった第一次世界大戦も先が見えてきた。そのため、欧米の目がヨーロッパから中国に向くようになった。一方、中国では、辛亥革命により、新しい体制に変わって間がなく、政治情勢は混沌としていた。また、三井物産は、中国に多くの拠点を持っていて、それらの取引は大きなものであった。三井合名を率いる泰斗として、現地の状況を知らなければ話にならない。こんなことであったであらう。米山も同じであっただろう。

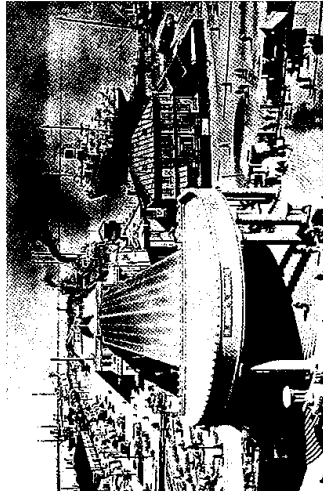
この同行者に米山が名指しされた。團は、米国のマサチューセッツ工科大学に留学している。何かとアメリカ風の考えや、率直な気性の米山と気があったのであろうか。

【第2回目】2回目のときは、資料が全くといっていいほどない。場所や季節を示す感が3首ある。もう一つ、他の人の書いた文章がある(『米山梅吉傳』 土屋計左右「米山尊翁追憶」)。

歌は「妻 駿二 桂三ともども満州朝鮮を旅して」として、次のものである。

かきくもり 雪さへそへし 空はれて
憂気横うかぶ 大連の港
二十保里 三十里台 春風の
さそふがまゝに 満州を奥に
日出つれば 五竜の高嶺 くれなゐに
光は流る 鴨緑江の水

これらによって推察すれば、次のようである。船で上海に行く。上海に数日とどまり、ここから船で大連に行き、鉄道で北上、奉天(現瀋陽)に行く。ここから新京(現長春)、ハルビンまで行つたかどうかかわからない。いずれにしても、奉天から朝鮮に出て、釜山から帰国したものである。



1920年代後半の大連埠頭
〔図説 大連都市物語〕1999.08.20 河出書房新社より



往時の奉天駅

〔満州 昨日今日〕1991.06.15 新潮社より

二十保里、三十里台というのは、大連の近くである。大連駅から50km前後のところは、鴨緑江が見えるのだから、朝鮮との国境近くである。

地図に五竜背という場所がある。

五竜背は、当時比較的新しい温泉地で、特に日本人には人気があった。先の『團琢磨傳』にも「當宿は一軒家に俤得共温泉は上等」という記載がある。ここでは、名だたる歌人、文人が歌を詠んでいる。与謝野晶子や寛のものもある。

駅の北方に五竜山という山がある。山頂は「五峰に分れ奇巖雲表に聳えて遠景面白く、頂上からは遙かに鴨緑江を越えて朝鮮の新義州を望」めた(『思い出の満州鉄道 各駅停車』昭04.12.15南満州鉄道株式会社 復刻昭59.09.20国書刊行会)。山頂までは、3、4時間かかるそうだから、米山が頂上まで行つたかどうかかわからない。

このときの旅行の目的である。「御令息殊に駿二君の御慰安のため」ということなのである。このとき、米山は、57才、2年前に三井銀行の常務取締役をやめ、三井信託の社長であり、その年2月から信託協会の会長であった。ロータリー関係では、日本に初めておかれたスベシャル・コミッションナーであった。次男20才、三男18才である。

余談。この家族旅行が大正14年のいつかわからなかった。先の歌は、春の歌である。ところが、土屋計左右「米山尊翁追憶」の文章に、「秋風の吹きそめた寒い朝に御一家は埠頭を窺って大連に向かわれた。」とある。このように状況まで述べられた文章を見ると、秋かなと思う。しかし、人の記憶というのは不確かである。米山の旅行は、やっぱり、春だった。『名古屋ロータリークラブの50年』に、こういう文章がある。「(認定状伝達式が大正14年4月26日であるのは)、2月8日の承認から3か月近くの空白があるが、これは肝心のスペシヤル・コミッションナー米山梅吉が、この期間中に中国へ旅行するため、帰国を待って開くことにしたからである。」と。

【第3回目】3回目的ものは、米山自身の記録がある。ガバナー通信(仮称)である。

これは、その全文を『35周年記念誌』の資料編に載せておいた。

昭和5年10月12日東京出発、13日に神戸、ここから土屋元作(大連RC)と会い、船で大連へ。大連には、16日の到着。その日、大連RCの例会に

米山記念館との出会い

RI 2570地区(埼玉県) 浅田 光二 (志木RC)



私が米山記念館との関わりができたのは1988年の夏のことでした。

実はこの年度(1988～89)から、私も埼玉県のリリーは二地区に分割され、埼玉南東部(浦和、川口、大宮、春日部など)は277地区(現2770地区)、埼玉西北部(川越、所沢、熊谷、秩父など)は257地区(現2570地区)となっており、同年度RI会長ロイス・アビー会長の掲げられた「ロータリーに活力を一あなたの活力を」を実践すべく、新しい体制を整えて再出発したのであります。

そのため、四大奉仕をはじめ各委員会の構成も新しくなり、たまたま前年度にクラブ会長(志木RC)であった私が初めてRI第257地区の米山奨学委員として任命された際も、まだ本当に他地区のロータリアンの方々ととの交流の日も浅い若輩者に過ぎませんでした。幸い、それまでの十数年間のロータリアンとしてのクラブ内外の先輩の方たちから、日本のロータリーの祖ともいえるべき米山梅吉先生のご苦勞の数々はいつも教えていただいておりますので、尊敬の念は強くもっておりまして、初めて地区委員に任命されたのが、他ならぬ米山奨学委員会の委員であったことは、私にとりては夢のような話で、よい機会に恵まれたことになり心から感謝したことを、つい昨日のことのように思い出します。

その年、私はあらためて米山梅吉翁の遺徳を偲ぶ記念館が長泉町に存在することと、そのすぐ近くには翁のご墓所があることを知り、私は地区の米山奨学委員となつたからにはまず記念館を見学して勉強し、さらには翁のご墓所に詣で就任のご挨拶をいたしたいと思ふようになりまして。なぜそれほどにまで執着したかと申しますと、理由は二つあります。

第一には、昭和35年に発行された「米山梅吉伝」(米山梅吉先生伝記行会編集・青山学院初等部発行)の中に「ロータリークラブと米山先生」という一章があり、その中に、僅か5行程の記録であるが私の心を捕らえて離さなかった記事が躍っていたのです。それは次のような文章でした。

「昭和二年十月十九日第七回記念日に、前国際ロー

ない。多分、釜山から朝鮮を北上し、奉天に向い、ハルビンを経由した。ハルビンまでのルートの詳細はわからない。米山に『飛脚だより』という文章があり、そのときのこととが触れられている。これは、米山が旅先から、日本に宛てた手紙が中心である。ハルビンを通ったことがこのなかに出てくる。

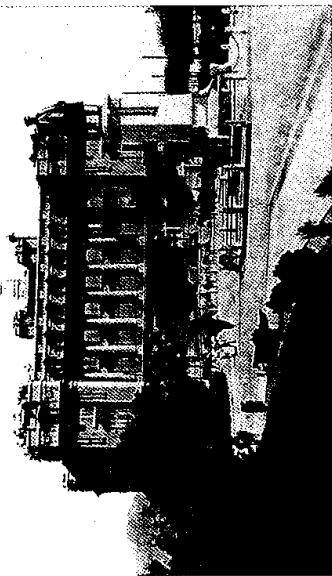
もう一つは、昭和4年9月に上海に立寄っている。米山は、ガバナーとして、その年の5月28日からアメリカ、ダラスでの国際大会に出席した。その後、イギリス、フランスなどヨーロッパを回り、マルセイユから船で帰国した。

このとき、船の寄港の関係で、上海に2日間滞在した。このときは、三井信託の社長であった。この時の記録には、米山の『東また東』という歌集がある。このなかに「上海にて」として、歌が何首かある。次は、そのうちの2首である。

黄にそめる 色もなつかし 吾妹子と
亡見のかげを うつつつる水
立ち寄らむ 浦の柳の 色あらた
渭城の宿の 雨ならなくに

余談。この『東また東』で、一つ誤植を見つけた。このなかに、9月17日にマルセイユを宛ったという記載がある。一方では、9月23日の私咄、神戸に着いたという記事もある。6日間では着けないわけで、1ヶ月間違っているであろう。これを裏付けるものとして、米山がヨーロッパから投函した8月15日付の手紙がある。これには、明後日マルセイユを發つとの記事がある。したがって、『東また東』の9月17日は8月17日の間違ひといふことになる。米山の字は違筆である。漢数字の入を九として植字したものが、校正でとおってしまったものであるうか。

なお、記録に現れないもう1回というのは、米山が三井銀行に入った翌年(明治31年)、銀行業務取調のため、欧米に出張したときである。行きは太平洋を船で、帰りはイタリアのゼノアから船で帰ってきた。このとき、上海に立寄っているであろう。



大連RCの例会が行われた大連ヤマトホテル
(『図説 満鉄』2000.08.25 河出書房新社より)

出席。18日ハルビンRC、20日奉天RC、22日京城RCに出席。そのあと釜山に出て、船で下関へ。

これは、今という、ガバナーの各クラブへの公式訪問である。米山は、このときガバナー3期目であるが、全クラブについて初めて行なった公式訪問である。

このときは、仲のよい土屋元作と一緒に、各地で歓迎を受け、交流があり、楽しい旅だった。なお、米山は、昭和6年3月、台北に行っている。台北には、4日間滞在した。台北RC創設のためである。

【その他】旅行という意味では、この3回であるが、他の旅行の途中で中国を経過したことが2回ある。記録では確認できないが、もう1回あると思われる。

一つは、大正2年3月である。この時は、三井銀行の常務であった。今の常務と違って、三井銀行には、社長はいたが、君臨すれども統治せずで、米山を含む3人の常務が経営を行っていた。

三井合名の理事会で三井物産の実力者益田孝が三井銀行を叱咤した。当時、三井銀行は、三井財閥の金庫番であったものの、外国為替の業務をしていなかった。それで、外為業務を横浜正金銀行に頼んでいた。益田は、三井銀行がそんなことではいいの、外為というおいしいところを他の銀行に持って行かれてしまわないかとはばをかけた。それに直ちに反応し、米山が欧米の外為事業の調査に出向いた。行きは、シベリヤ鉄道、帰りは、アメリカから太平洋を船で帰ってきた。シベリヤ鉄道に乗るのにどのルートを行なったか定か

タリー理事米山梅吉氏が日本のロータリーに對し獻身的の努力を續けたのを感謝するため記念のバッジが贈呈された。このバッジはダイヤモンドを取りつけたもので米山氏は感激に充ちて、平素の如く充分の装束も述べ得ない情景であった。この日出席の特務代表員、平生銀三郎氏(元文相)は斯くの如き米山氏に對する敬意と厚情とは東京クラブのみが私することは不公平であつてむしろ日本の全クラブにも参加させてほしいと述べ喝采を博した。(日本ロータリー史)

昭和二年のその日こそ、まさに私がこの世に生を受けた日でありましたから、それが、日本のロータリーの祖とも呼ばれる米山翁にとって特別の日とされた日であつたという偶然は、お会いしたこともない偉大な米山翁と、まだ駆け出しのロータリアンの私の間に目には見えない強固な橋が架けられた思いがあつたのです。

第二には、米山翁の亡くなられた昭和21年4月という時期は、たまたま私の父が病没した時期と1ヶ月違つてあつたことと、そして昭和21年の春3月から4月とつて、国内は混乱の真只中にあり、葬儀一式行うのに、現代の方々の想像もできないほどの大変な困難を伴つていたことを実体験した私としては、翁に對する敬愛の念、追慕の思いが、人一倍強いものとなつてこみ上げてくるのを抑えることができなかったのです。

そうした経緯で、この機会に米山翁への表敬の意を一刻も早くと思ひながら、それでもなかなか時間が取れず、真夏の旧盆の8月14日に私は新幹線で三島の駅に降り立つことができました。三島市には小學生のころに父や姉とともに三島大社に参詣したり、戦後も中伊豆方面への旅行の途次、立ち寄ったことも何度かありましたが、東レの側に降りたのは初めてでした。事前に用意した地図で見当はつてはつてありましたが、三島駅の目の前の東レの高い煙突を見上げたとき、私はこの日の私にとつての激しい感動を再確認した思ひで、真夏の太陽の炎熱の降りそそぐ中を地図を片手に歩き出しました。タグシーも駐車してしまいましたから、それを利用すれば簡単なのですが、米山翁の記念館と

ご墓所に初めて参上する私の気持ちとしてはその選択肢はありませんでした。

その頃は、道路も今ほど整備されてはいませんが、汗ダたから、結構遠回りになった記憶がありますが、汗ダクになってもなぜかさわやかな気持ちで歩いたことを覚えていきます。

当時の記念館は、現在のような組織にまではなっていませんでしたし、私としても、まだ遠慮ばかりが先に立って、事前のコンタクトもとらずに行動しましたので当然の事ですが、なにぶんにも8月の旧盆のことでしたから、記念館も休館で、長屋門や館の周囲を回っただけで、ご墓所に詣でました。幸い米山家のご墓所は、記念館からも現在よりも近い道があって、すぐにわかりました。【いさかひもなき漫々の青田かな】の句の刻まれた翁の墓碑には、旧盆の際でもあり、お花もお線香も供えられ、掃除も行き届いていて、ご親族の方やロータリーアンの方々のお墓参りの模様が想はれました。

この日は、帰路も当然流れる汗を拭いながら歩いて帰りましたが、念願であつたお墓参りを果たすことができ、充足感に満たされて帰宅しました。その後日を

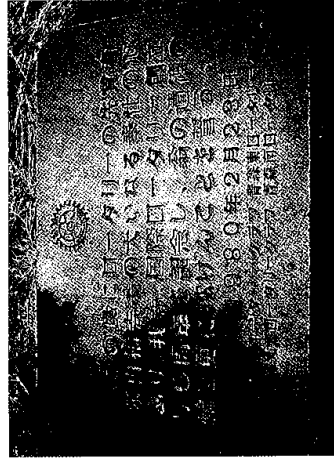


米山梅吉翁に感謝する

R12830地区(青森県)川口彰五郎(おいらせRC)

人の一生は、生まれてから死ぬまでの間に多くの人のお世話になり成長し、一人前になり、夫々の目標に向かって努力して人生を全うするものだと思っています。

健康に無事に育ってほしいと思う母親の献身、立派な人間になってほしいと願う父親の慈愛、兄弟や親戚、先輩その他数え切れないだけの人達の無償の物質的、



あらためて開館日に参上し、当時の六角屋根の記念館の内部を見学させていただき、諸々の展示品を拝見して米山翁のご事績の一端にふれることができ、米山奨学委員としての自覚を新たにし、また責任の重大さを痛感いたしました。その後、わが2570地区では、米山の研修旅行を毎年9月に実施し、記念館見学と米山翁の墓参を奨学生、カウンセラー、在日の学友たちが奨学委員会の責任において一泊旅行として実施しています。地理的には私ども2570地区の場合、朝8時に川越市を観光バスで出発すればお昼前後に記念館に到着、記念館見学と米山翁のお墓参りをしてから、再びバスにて、伊豆半島、または静岡・焼津方面、或いは富士山麓方面に一泊しても、翌日の夕方迄には出発地点に戻れますので、参加者からも好評を得ています。それが口伝えになって地区内クラブの記念館参観希望も年々増えているようです。

現在の記念館はお陰様で新しく大きくなり、展示品も充実していますので皆様のクラブの親睦旅行の途次などに組み入れて頂き、立ち寄られたら如何かと思う次第です。

精神的な恩恵を受け育ってきました。時には見ず知らずの人に助けられたこともたびたびありました。

私の人生は、善意の大勢の人々のお陰で現在の自分があるというこを年と共にひしひしと感じています。このお世話になった人々にお返しをしたいと思っています、すでにこの世を去ってしまったと思っているのが殆どです。社会から受けた恩恵(経済にたえれば借金)をどれだけ多く社会にお返しできたか(借金と利息)が人のひとつの評価ではないかと思っています。

そう言う意味で米山梅吉翁は、何千万倍もの利息を付けて日本全国にお返しをした人ではなかったでしょう。国家が及ばなかった日の当たらない底辺の人々に慈愛を持って奉仕されたわけてです。

人類愛あふれた梅吉翁の類まれなる一生は、我々ロータリアンの鑑です。「超我の奉仕」そのものを実行され、生涯続けられました。

すでにご承知のように翁は三井報恩会理事長として、又個人としても膨大な奉仕事業を全国に展開されました。

た。その中でも青森県は特段に梅吉翁にお世話になりました。

米山記念館館報(2004秋号)に同年春季例祭での笹森健美氏(牧師、父順造氏は東奥義塾初代塾長、元参議院議員)の記念講演「心で人を頼、接した米山先生」の内容が掲載されていました。それは梅吉翁の青森県との深いつながりを示していました。当時の青森県を代表するリーダーとの交流を通じて青森県のために如何に尽くしてくれたかを物語っています。

青森県を切り開いた東奥義塾初代塾長笹森順造、2代目塾長後に青山学院日本人初の学院長になった本多庸一、学院の先生で後に外交官として日本のために尽くした珍田格已。

梅吉翁はこれらの県人と深く親交を重ね、後に財政難に陥って廃校になった東奥義塾の再興に多大な協力をしてくれました。

1980年ロータリー創立75周年記念日に、青森、青森東、青森北東、青森南RCの共同事業として「米山梅吉翁と青森県」が刊行されました。

同誌の内容の一部を簡単に紹介いたします。

1935年(昭和10年)三井報恩会の事業の一環として、当時疲弊困窮していた東北の一寒村青森県西平内村に援助の手を差し伸べて立ち直らせ、又松ヶ丘保養園(当時は救済施設)の劣悪な施設を充実させたのであります。

以下、編集委員長の平田直司氏の(はじめに)の文章より。

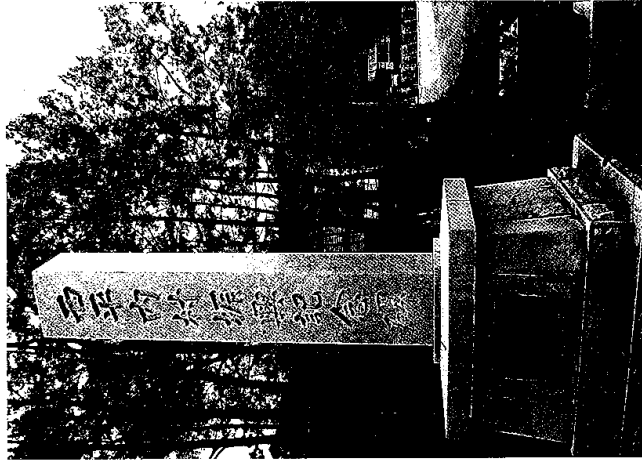
「青森市の東端、浅虫温泉から国道四号線を東に進むと、土塁を過ぎて次の山口の公民館前に一基の白化粧の石碑が立っている。

「西平内村振興記念碑」と力強い筆勢の九文字を刻み込んだこの碑こそは、本稿の主人公米山梅吉翁が、東北の困窮農村に対する深い愛情の証である。碑の台座には、三井方報恩会の援助により西平内村が窮乏から立ち直った感謝の言葉が刻まれているが、三井報恩会理事長米山梅吉翁と西平内村との繋がりはどのようなものであったのか。

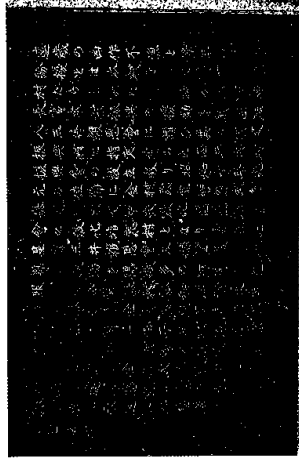
時が流れ、人は移り、今はそのころのことを知る人もなき数に入りつつあるときに、稀に見る麗しい物語が、空しく古里の土に消えうせることを恐れて、わずかに残っている資料と関係者の思い出を綴り合せて書き遺すことにした。」

何と西平内村の振興は延べ十年間に渡る資金と優秀な人材が提供され見事に立ち直ったのです。

当時、平田編集委員長は殆どの青森県民が忘れかけ



米山梅吉翁による振興の碑



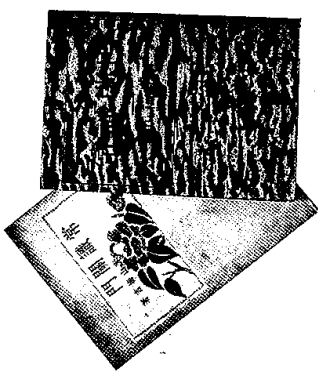
ていたこの事実を当時の分区分代理であった樋口喜四郎会員の「分区分だより」より「米山さんには借りがある。」の記事を読み、触発されて地区の広報セミナーに取り上げました。セミナーの最後に梅吉翁の顕写真をスクリーンに映し出したところ暫し沈黙の後、万来の拍手が沸き起こり、梅吉翁に対しての感謝、感激の涙であつたと書かれていました。

この事実を後世に遺すべくロータリー創立75周年記念の冊子とした訳です。

青森県民はこの恩を忘れずに、米山梅吉翁が念じた明るい豊かな幸せな地域作りを目標に励み、我々ロータリアンは米山さんの大恩(膨大な借り)を返すべく努力しなければならぬのではないのでしょうか!!

文芸

館展示の米山翁の書解説



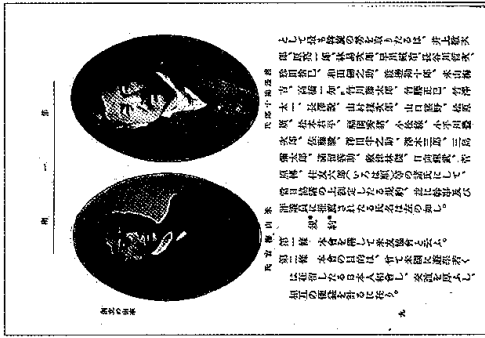
1920年頃、米山は母校青山学院で課外講義を担当していた。この講義は「米山の常識講座」と呼ばれ、学生の間で評判になっていたという。それから17年後の1937年、出版社に請われてこの『常識入門』が上梓された。ここで米山は、常識とは何か、という素朴かつ深い命題を、自分の経験をもまじえて、短歌、論文など、また日米の先人の言動を通して、さらにはサラリーマンの立場からと広い視野に立って綴っている。「常識は行住坐臥修養によりて円熟」「常識は来りて怠惰放漫の人に信ることはない」など、出版から70年近く経たず、現代を生きる私達に米山哲学にふれる良伴の1冊である。

米山没後7年目、初版『常識入門』に『銀行行余録』の抜粋を加えて第2版が出版されている。

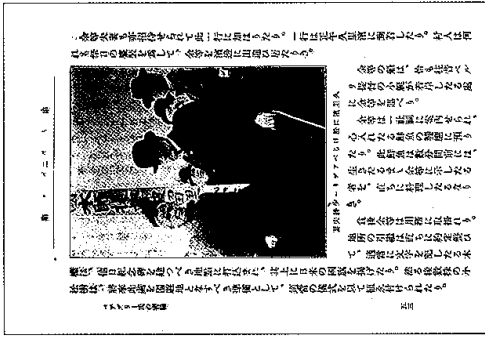
「日本は将来亜米利加に対しては十分注意を払ひ、之をベスタフランドとして行く事が必要である」これは雑誌『太陽』（大正7年6月15日号）に掲載された米山の文章である。遡ること20年の明治31年、当時アメリカに留学或いは滞留した人たちが集まり、交誼を結ぶ機関として米友協会が設立された。珍田捨巳や沢田半之助など米山を知る人にはなじみがある人達と共に、米山も発起人に名を連ねている。米友協会は、来日中のペーアズリー元海軍少将（彼はペリーの浦賀来航に同行）、を会に招待したり（この招待がきっかけで久里浜にペリー来航記念碑が建立された）、ルーズベルト大統領にサンフランシスコにおける日本人学生への排斥運動に関し抗議の電報を打ったり、ルーズベルトの令嬢来日にあたり歓迎会を開いたり、と活発な民間レベル外交を展開している。

日米がベスタフランド以上の関係になった今の日本を、米山が見たらなんというだろうか。

なお、この米友協会の画像データベースは横須賀市自然・人文博物館から提供をいただきました。



米友協会の創立メンバーとして名が載る



久里浜に立つペーアズリー夫妻
(上記2葉は『米友協会史』より)

寄付のお願い

平成10年に完成した米山梅吉記念館新館の運営は皆様からの寄付により行われています。基本経費として米山奨学会や近隣地区によるご寄付、来館時の募金運動によっています。まず一つに全国一人100円募金運動をいたしております。これは「100円の細い糸が館と全国を結ぶ」を合い言葉に平成12年から始まった運動です。今年度上半期の入金状況は下表のようになっています。

全国 100 円募金入金表									
平成17年7月～平成18年6月末									
地区	RC数	地区	RC数	地区	RC数	地区	RC数	地区	RC数
2500	68	北海道東部	13	2670	74	愛媛・香川・徳島・高知	13		
2510	73	北海道西部	14	2680	74	兵庫	29		
2520	85	岩手・宮城	12	2690	67	岡山・鳥取・島根	31		
2530	65	福島	11	2700	59	福岡・佐賀・長崎	12		
2540	43	秋田	7	2710	74	広島・山口	53		
2550	50	栃木	8	2720	76	熊本・大分	19		
2560	56	新潟	7	2730	64	鹿児島・宮崎	7		
2570	56	埼玉西北	16	2740	58	長崎・佐賀	10		
2580	72	東京・神奈川	20	2750	91	東京・北アリア諸島・グアム・ミクロネシア	11		
2590	63	神奈川	23	2760	81	愛知	23		
2600	58	長野	10	2770	83	埼玉南東	25		
2610	65	富山・石川	3	2780	71	神奈川	18		
2620	84	静岡・山梨	42	2790	85	千葉	39		
2630	80	岐阜・三重	23	2800	56	山形	11		
2640	76	大阪府南部・和歌山	53	2820	59	茨城	12		
2650	94	福井・滋賀・京都・奈良	16	2830	41	群馬	8		
2660	86	大阪府北部	16	2840	47	群馬	7		
RC総数		2334	口数合計		622口	合計金額		3,289,905円	

もう一つの運動に賛助会があります。これは自主的な善意によりお願いしているものです。会費はお一人一口年3,000円となっております。賛助会に入会していただくこと2回発行の館報を個人的にお届けすることが出来ます。

賛助会入金表									
H17.7月～H18.6月末									
地区	RC数	地区	RC数	地区	RC数	地区	RC数	地区	RC数
2500	68	北海道東部	0	2670	74	愛媛・香川・徳島・高知	0		
2510	73	北海道西部	4	2680	74	兵庫	0		
2520	85	岩手・宮城	1	2690	67	岡山・鳥取・島根	0		
2530	65	福島	1	2700	59	福岡・佐賀・長崎	0		
2540	43	秋田	0	2710	74	広島・山口	33		
2550	50	栃木	3	2720	76	熊本・大分	1		
2560	56	新潟	0	2730	64	鹿児島・宮崎	2		
2570	56	埼玉西北	0	2740	58	長崎・佐賀	0		
2580	72	東京・神奈川	1	2750	91	東京・北アリア諸島・グアム・ミクロネシア	36		
2590	63	神奈川	6	2760	81	愛知	1		
2600	58	長野	1	2770	83	埼玉南東	2		
2610	65	富山・石川	0	2780	71	神奈川	0		
2620	84	静岡・山梨	176	2790	85	千葉	12		
2630	80	岐阜・三重	0	2800	56	山形	0		
2640	76	大阪府南部・和歌山	1	2820	59	茨城	0		
2650	94	福井・滋賀・京都・奈良	2	2830	41	群馬	0		
2660	86	大阪府北部	2	2840	47	群馬	0		
RC総数		2334	口数合計		287口	合計金額		1,130,100円	

どちらの募金もクラブ単位、地区単位、個人いずれの形でも結構です。今後の館の発展運営に対する自発努力の必要性は関係者一同痛感している所ではございますが、叱咤激励と共に皆様のご理解ご協力をよりお願い申し上げます。

●申し込み、振り込み先
郵便振替口座番号 00820-4-57730
加入者名 財団法人 米山梅吉記念館

米山梅吉記念館周辺の観光情報



伊豆
修善寺
温泉

IZU SHUZENJI

SORA

TOGETSUSOU KINRYU



露天風呂からは
修善寺温泉街・修善寺・竹林が
一望です。
晴れの日には湯天の美しさを
お楽しみください。



SORA 宙 TOGETSUSOU KINRYU
〒410-2416 静岡県伊豆市修善寺3455
電話 0558-72-0601
ファクシミリ 0558-72-2239
<http://www.kinryu.net/sora>

ご家族旅行、慰安旅行などにもご利用ください。昼・夜のご会食も承ります。

米山梅吉記念館のご案内

開館時間

午前10時～午後5時（但し11月～3月は
午後4時まで）

休館日

- 月曜日
- 12月28日～1月4日
- 整理のための休館日



米山梅吉記念館報

Vol. 8

発行日 平成18年8月10日
発行者 財団法人 米山梅吉記念館 理事長 内藤成雄
〒411-0941 静岡県駿東郡長泉町上土狩346-1
TEL (055) 986-2946 FAX (055) 989-5101
URL : <http://yoneyama-umekichi.jp/>
e-mail : yumh@ai.tnc.ne.jp
印刷 フタバ印刷株式会社